

中部の

エネルギーを 築いた

人々

21世紀の中部圏を展望した 田中精一

その1 - 中部電力㈱社長と中経連会長を兼務し貢献する

1986(昭和61)年、名古屋市伏見に「電気文化会館」が建設され、今年で開館30周年を迎える。会館の東側に、「この地は1889(明治22)年に名古屋電燈会社が火力発電所を建設した中部地方電気事業発祥の地である」という中部電力株式会社取締役会長・田中精一の碑がある。

電気文化会館には、1階から4階までは“でんきの科学館”、地下2階はクラシック専用のザ・コンサートホール、5階にはイベントホール、ギャラリーを備えている。

この地にあった火力発電所は、その後、名古屋電燈の本社社屋から東邦電力の電気百貨店となり戦災にあい、戦後は中部電力㈱の広小路サービスステーション、電気文化会館へと変わった。

今回から2回連載する田中精一は東邦電力に入社、中部配電㈱を経て、1951(昭和26)年の電力再編成で中部電力㈱に移る。中部電力㈱取締役社長時代に中部経済連合会会長(以下、中経連と記載)に就任、中電社長と中経連会長を3年間兼務した。中経連会長時代に「21世紀の中部ビジョン」を策定し、中部圏の産業技術、さらに、スポーツ・文化振興策の実現を進めた。

今月号は、その1 - 中部電力㈱社長と中経連会長を兼務し貢献する -、7月号で、その2 - 中経連会長でスポーツ・文化に貢献する - を紹介する。



田中精一

1911(明治44)～1998(平成10)

(出典：時の遺産)

田中精一の生涯

1 生い立ち(ローアウトの精神) ……………

田中精一は、1911(明治44)年4月26日、父徳次郎、母たかの長男として佐賀県佐賀市に生まれた。父徳次郎は、松永安左衛門翁の片腕であり東邦電力初代専務を勤めるなど、電力事業の草創期に活躍した。詳細については、本誌の平成25年10月号を参照されたい。

大正13年に慶應義塾普通部入学、慶應義塾大学法学部予科に進み、昭和9年に法学部を卒業した。普通部2年の冬からボートを漕ぎ始め漕艇部に入部した。

ボートにはクルーの基本的な心構えを説く

言葉として、全員一致協力を強調する「一艇あって一人なし」、またクルーの一人一人が自分の持てる力を極限まで出し切る努力を示す「ローアウト」というボート精神の神髄を表す表現がある。

学生時代ボートに明け暮れローアウト精神を体験した。

2 電力マンとしてスタート ……………

1933(昭和8)年に父・徳次郎がなくなり、翌年の昭和9年に東邦電力㈱に入社、福岡支店に配属された。当時、福岡支店には前身の九州電灯鉄道を引き継ぎ、市内電車を走らせ

ている電車課があり、そこで半年くらい車掌、運転士を経験し、その後、経理、営業業務を体験した。昭和14年に発送電事業、昭和16年に配電事業が国営化され、昭和17年4月に東邦電力が解散したのに伴い、中部配電(株)名古屋支店に移った。昭和19年に静岡支店に転勤し終戦を迎えた。昭和24年、中部配電(株)の名古屋本店に転勤した。

1951（昭和26）年5月に電力再編成令に

より9電力体制が発足、中部電力(株)本店営業部に勤務した。その後、昭和33年に世界銀行から畑薙発電所建設資金として2,900万ドル導入交渉のため訪米、昭和34年に伊勢湾台風非常災害対策本部の設置、浜岡原子力発電所の用地取得、昭和37年に取締役役に就任した。昭和47年、副社長に就任し四日市公害訴訟判決を受け入れた。



浜岡原子力発電所

- ① 所在地：静岡県御前崎市佐倉5561
- ② 出力：361.7万kW

号機	電気出力	運 転 状 況
1号機	—	2009年(平成21)1月運転終了
2号機	—	2009年(平成21)1月運転終了
3号機	110万kW	1987(昭和62)年8月運転開始、2010(平成22)年11月から定期点検により運転停止後、2011(平成23)年5月から運転再開の見送りを決定
4号機	113.7万kW	1993(平成5)年9月運転開始、2011(平成23)年5月から運転停止中
5号機	138万kW	2005(平成17)年1月運転開始、2011(平成23)年5月から運転停止中

1977(昭和52)年、中部電力(株)の社長に就任した。その挨拶で、昭和48年の石油危機を契機とする不況とエネルギー危機が深刻化する中で、この難局を乗り切るために社員一人一人が全力でぶつかるしかないと考え、何事にも全力を尽くし、悔いを残さないという願いを込めてローアウトの言葉を引用した。

電気事業の国際化については、創生期時代の電力機器購入に始まり、世界銀行などからの資金調達、石油・原子力燃料の調達など電気事業業界が海外と接触する機会が多くなった。これらのことから、世界に向けて広い視野で物事を見、知り、判断していくため、中経連会長に就任した昭和57年に中部電力ワ

シントン事務所、取締役会長に就任した昭和60年にロンドン事務所を開設した。

さらに1981（昭和56）年に「在名古屋ドイツ連邦共和国名誉領事・領事法に基づき権限を有する領事官」に拝命された。これは単なる名誉職ではなく、在日ドイツ人の旅券の期間延長、更新、西ドイツに留学する日本人に対する関係書類の発行、日独国際結婚に伴う戸籍の証明などの署名をはじめ通商の促進と交流、ドイツ国民の援助と保護等に関する具体的な事務の遂行などに貢献した。

（参考）日独友好記念の発電所

- (1) 宮城第一発電所と「安曇野の電力発祥の地」の碑

宮城第一発電所の概要

- ① 所在地：長野県安曇野市穂高有明



宮城第一発電所と安曇野の電力発祥の地の碑

- ② 出力：400kW(当初250kW)、発電機：シーメンス社製250kW、水車：フォイト社製370馬力で運転されている。水車には「No.1433 JMVOITH HEIDEHEIM 1930」と記されている。

- ③ 宮城第一水力発電所百周年記念説明板：当発電所は明治37年9月14日に運転を開始した発電所で安曇野の電力発祥の地です。1号機の水車と発電機は、当時の安曇電気株式会社がドイツから輸入し設置したもので、細部改修はあったものの、現在も原形のまま運転中です。同所より以前に設置された水力発電所はいくつかありますが、原形のまま運転しているものは、ここしかなく日本現役最古の発電施設として、産業考古学的にも高く評価されています。

- ④ 宮城第一発電所と長良川発電所の工事の中心となったのは当時シーメンス日本支社に勤務していた野口遵であった。その後、野口遵は日本窒素株式会社を設立、日窒コンツエルンを一代で築き上げた。

- (2) 長良川発電所と友好記念プレート

長良川発電所の概要

- ① 所在地：岐阜県美濃市立花



長良川発電所の発電機と1882年当時のプレート

- ② 出力：4,800kW（当初4,200kW）、発電機：シーメンス社製2,500kW 2機、水車：フォイト社製、2,330kW 3台（1台予備）
- ③ 昭和56年増設時に撤去した水車発電機1台を保存展示。翌年、「これらのドイツの工場で製作された機械は70年以上に長きにわたって誠実に働き続けこの地方の電力供給に貢献しました。ドイツ

と日本の良き協力関係がここに実証されていることを我々は喜びとするものであります。」と記された記念プレートが贈られた。

- ④ 明治43年3月16日から名古屋開府300年を記念して開催された第10回関西府県連合共進会会場となった鶴舞公園に送電された。

簡単な履歴は次の通りである。

西暦	和暦	発電所名
1911	明治44	父徳次郎、母たかの長男として佐賀県佐賀市に生まれる
1934	昭和9	慶応義塾大学法学部卒業
		東邦電力株式会社入社－解散に伴い中部配電株式会社に移動
1951	昭和26	中部電力株式会社設立
1972	昭和47	取締役副社長に就任
1973	昭和48	藍綬褒章受章
1977	昭和52	取締役社長に就任
1981	昭和56	ドイツ連邦共和国名誉領事
1982	昭和57	社団法人中部経済連合会会長
1983	昭和58	社団法人経済団体連合会常任理事
1984	昭和59	新徳川美術館建設協議会顧問
1985	昭和60	勲一等瑞宝章受章
		社団法人日本漕艇協会会長
		社団法人日本電気協会会長
		取締役会長に就任
1986	昭和61	財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団理事長
1987	昭和62	熱田神宮総代
1990	平成2	中部新国際空港建設促進協議会代表理事
1991	平成3	相談役
		株式会社名古屋グランパスエイト取締役会長
		フランス共和国レジオン・ドヌール勲章受章
1997	平成9	株式会社名古屋ドーム取締役会長
1998	平成10	死去

（寺澤 安正）